

基本問題

売上が増大している機械製造業 F 社の下記比較貸借対照表から、

- (1) 2 期間の自己資本比率・流動比率・固定長期適合率を算出下さい (算式も明示すること、比率は%未満切捨て)。
 (2) F 社の安全性について簡単に説明しなさい。

要約貸借対照表

F 社		(単位: 百万円)			
資産	前期	当期	負債・資本	前期	当期
流動資産	555	1,095	流動負債	525	1,140
固定資産	165	285	固定負債	45	75
			自己資本	150	165
合計	720	1,380	合計	720	1,380

本問のポイント

- 3つの安全性比率を2期間にわたり算出する。
- 時系列中心の比率分析であるが、企業の体質的な強弱点を見逃さないようにすること。
- 自己資本比率の悪化がひびいて他の比率にも影響しているのを、一般的な安全性悪化に言及すること。

【基本問題解答例】

(1)	前期	当期
自己資本比率	$\frac{150}{720} \times 100 = 20\%$	$\frac{165}{1,380} \times 100 = 11\%$
流動比率	$\frac{555}{525} \times 100 = 105\%$	$\frac{1,095}{1,140} \times 100 = 96\%$
固定長期適合率	$\frac{165}{45+150} \times 100 = 84\%$	$\frac{285}{75+165} \times 100 = 118\%$

(2) 上記3つの比率により明らかのように、F社の安全性は前期においても低いですが、当期ではさらにそれが急速に悪化している。とくに、自己資本比率は9ポイント下がって11%と低率になっているのが目立つ。これは、業容拡大等により総資本額が約1.9倍になっているのに対し、その調達源泉の多くは負債に依存し、自己資本の増額はわずかにとどまったからである。

また、固定資産120百万円の投資資金は、その調達源泉が自己資本・固定負債という長期安定的な資本だけでは足りず、その不足額75百万円を短期資金である流動負債に依存したため、固定長期適合率が100%を超え、逆に流動比率は100%を割り、長期資金調達源泉の不安定さ、短期支払能力の低下を招いた。

$$ROE = \frac{R}{E} = \frac{\text{税引(経)利益}}{\text{自己資本}}$$